

From Local to Global
私と公衆衛生

ガラパゴス化する？ 日本の医学教育

日本尊厳死協会理事長 岩尾總一郎 (元厚生労働省医政局長)

医学、医療に国境はなく、医師という職業は世界共通の価値のある仕事なのだろう。医学知識や医療技術の習得においては言語を問わないが、最新医学情報は英語文献であり、英語を直接理解できれば、習熟度も早まる。ヨーロッパの非英語圏諸国のなかには、古くから英語で医学教育を行い、外国人留学生を受け入れてきた大学がある。安倍晋三首相がサミット前に訪れたV4、ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリーの中欧諸国にある大学医学部である。

センメルweis大学医学部の卒業式(写真)が去る6月29日に行われた。以前にも書いたが、同大はハンガリーの首都ブダペストにキャンパスがある。医学部の創立が1769年と歴史がある。式には山本忠通駐ハンガリー日本大使、東京大学医学教育国際協力センターの北村聖教授も参列した(壇上中央2列目)。全461人の医学部卒業生のうち3人が日本人だ。私は同日に行われたセグド大学医学部の卒業式に参列するため、ブダペストから南東170キロ離

れたセグド市に向かった。卒業生173人中4人の日本人学生がいるからだ。異国の大学に来て6年以上の歳月をかけた英語で医学を学び、晴れて卒業した学生だ。ヨーロッパに残る者もいるが、多くは来年の日本の国家試験を受けるという。心からエールを送りたい。

WHO(世界保健機関)は各国医学教育機関のディレクトリを発行している。07年版には世界の2154機関が掲載されている。日本の80医科大学も含まれる。ただ、これらは医学教育の場として認定されているものであり、大学の質の担保をするわけではない。WHO自身も教育の質に関しては、その難しさから、「各国の政府がそれぞれ認証機関を定めて行う」と言及を避けている。

ハンガリー医学部のレベルは

ハンガリーの大学医学部、果たしてレベルはどの程度だろうか。セグド大学のホームページには「上海リストでは当大学が中央ヨーロッパで最高の大学に選ばれている」

と書かれており、また、センメルweis大学は「URAPランキングでハンガリーでは2番目に優れた高等教育機関であり、世界で532位に当たる」と載せている。今回は大学の評価、ランキングについて述べてみよう。

セグド大学が上海リストと呼ぶのはARWU(Academic Ranking of World Universities)のことだ。03年に上海交通大学高等教育研究院が初めて発表した指標だ。ノーベル賞やフィールズ賞を受賞した卒業生、教員数、ネイチャー・サイエンスなどの雑誌への発表数や被引用文献数、学生当たりの学業成績などをポイント化している。

ARWUの特徴は、研究成果や論文の質に重点が置かれ、「研究機関としての質」が高い大学が評価される。12年の上位500校が発表されているが、臨床医学及び薬学に関しては、10年版が最新で、ハーバードが1位、カリフォルニア大サンフランシスコ校が2位、ジョンズホプキンスが3位、日本の大学でトップ200位までに入る大学は6校、京大が44位、東大

が51〜75位のレンジに入っている。

イギリスの新聞社タイムズもWorld University Rankingを年1回発表している。「教育環境」「国際性」「産業界からの収入」「研究」「引用」の5つの全体指標と、13の個別指標で評価し、そのなかの上位400大学が公表される。12年版ではカリフォルニア工科大学が1位、東大27位、京大は54位である。このランキング指標をみると、日本の大学の「国際性」が総じて低いことがわかる。

同じく、イギリスの大学評価機関Quacquarelli Symondsが毎年公表している「QS世界大学ランキング」の特徴は、研究者からの評価(40%)、被引用論文数(20%)などの研究の質に加え、学生当たりの教員比率(20%)、雇用者からの評価(10%)、外国人教員比率(5%)や留学生比率(5%)を重視している点だ。第三者からの評価や、大学の国際化の進展度が高いと上位にランクされる。12年版ではトップ3がマサチューセッツ工科大学(MIT)、ケンブリッジ、ハーバードの順、東大は30



位、京大は35位だ。

このほか、ウイキペディアで検索しても13のランキング指標がある。台湾のHEEACT(11年版でハーバード1位、東大16位、京大33位)、オランダのLEIDEN(医学分野での1位がMIT、京大253位、東大261位)など。ウイキペディアにも書かれているが、国際比較は通用する指標がなくなり、国際比較は通用する指標がなくなり、英語圏の大学が上位にランクインしやすい、理系偏重などといった否定的な意見もあるとのことだ。

センメルweis大学が言及したURAP(University Ranking by Academic Performance)という指

標は09年、トルコにある中東情報科学研究所が学術出版物の質と量に基づき、2000以上ある世界中の大学を層別化して開発した指標だ。センメルweis大学は医学部に限ると260位だ。

この指標を用いると、センメルweis大学医学部レベルにある日本の大学は、千葉大(252位)、東京女子医大(258位)、金沢大(262位)。ハンガリーのほかの国立大学医学部ではデブレツェン(431位)、ペーチ(467位)、セグド(478位)がそれぞれランクインしているが、日本では富山(427位)、和歌山(433位)、弘前(464位)、鳥取(479位)辺りに相当する。なお、500位以下には、日本にある80医科大学/医学部中23校がリストされている。

これらは、医学研究に対するランキングで医学教育とは関係ない。だから、大学の教育と研究で比較は異なるという読者もいるだろう。経済同友会は本年4月初め、大学に対する評価を行っている現行の「大学評価制度」が一般に認知

されていないとして、情報公開の徹底や説明責任の強化を求める提言を発表した。競争を促し、大学教育の質を向上させるため、学生保護者、企業などの利害関係者が大学を的確に評価できるよう、制度を変えるべきとしている。

米国では23年以降、米国医科大学協会(AAMC)、または世界医学教育連盟(WFME)WHOの下部組織)の基準により認証を受けた医学部の卒業生以外は米国内の臨床研修ができなくなる。

ハンガリーはすでにHAC(Hungarian Accreditation Committee)という認証機関を設立している。だから、将来は米国で医師にと考える外国からの留学生が集まってくるはずだ。ハンガリーでも着々と国際化が進んでいるようだ。

一方、日本には医学教育の質を評価する認証機関が存在しない。日本の医学部を卒業しても、世界へ羽ばたくことができなくなる。優れた機能を持ちながら世界標準にならなかつたケータイ電話のように、日本の医学教育はガラパゴス化するのか。